

## 静岡地本の人気動画シリーズを岐阜基地で撮影

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は3月24日（水）と25日（木）、航空自衛隊岐阜基地（岐阜県各務原市）で動画撮影を行った。

なかなか見ることのできない駐屯地や基地の中、自衛官の生活や仕事について広く知ってもらおうと、静岡地本では公式ホームページでさまざまな動画シリーズを公開している。

その中で特に人気の動画が、各駐屯地・基地・艦艇の食事風景を撮影した「防人（さきもり）達のめし」。第1弾として公開した「岐阜基地ソースカツ丼」は再生回数62万回を記録している。今回の取材では、「防人達のめし」として朝・昼・夕の隊員食堂の様子のほか、自衛隊らしいライナップのコンビニや充実した運動施設など、基地内を探検しているように巡る「体感入隊」、そして新企画である『自衛隊に泊まってみた』動画を撮影した。

動画は、隊員たちの自然体の姿や隊内の雰囲気をおのまま伝えること、見ていて飽きないスピード感を重視して作成しており、1本数分程度で気軽に見られる。今回撮影した動画も近日ホームページで公開予定。

静岡地本は、今後も動画やSNSを活用し、自衛隊の新たな一面を知ってもらえるような広報活動を行っていく。



## 静岡から海上自衛官としての第一歩を

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は、海上自衛隊横須賀教育隊（横須賀市）において行われた、4月8日（木）の一般曹候補生課程入隊式、4月9日（金）の自衛官候補生課程入隊式に参列し、静岡県出身隊員たちの門出を祝福した。

両日とも穏やかな晴天に恵まれ、入隊した彼らは希望を胸に、緊張した面持ちで入隊式に臨んだ。式典は来賓及び新隊員の家族が見守る中行われた。横須賀地方総監・酒井良海将に対する栄誉礼、海上自衛隊横須賀音楽隊の演奏に合わせたの国歌斉唱の後、新隊員が宣誓文を力強く読み上げ、海上自衛官として責務と自覚を誓った。

酒井総監は「6万人以上の先輩たちが同じような不安を抱きながらも通り抜けてきた道であり、先輩たちができて君たちにはできないことなどない。自信を持って毎日を過ごしてもらいたい」と訓示した。式の最後には、海上自衛隊歌「海をゆく」を新隊員が斉唱。式を締めくくり自衛官としての第一歩を歩み始めた。この先彼らは約4カ月間、集団生活を送りながら基礎を学んでいく。

参列した家族は「制服姿が凛々しく、たくましく見えた。同期と4カ月の教育を乗り越え、立派な自衛官になってもらいたい」と笑顔で話していた。静岡地本は、彼らが自衛官として成長する姿を温かく見守るとともに、地元にいる家族との架け橋として活動していく。



## 板妻駐屯地の入隊式に参列

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）三島募集案内所は4月10日（土）、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）で行われた「令和3年度自衛官候補生入隊式」に参列した。

当日は、例年にないほどの穏やかな晴天で、桜の花びらはほぼ散っていたものの、濃い桜の萼（がく）が式場の辺りを紅色に染めていた。今年のは新型コロナウイルス感染症防止対策として初の屋外での開催となり、家族参列のもと、総勢86人の新人自衛官候補生が入隊式を迎えた。

今年度、三島所が担当した一般曹候補生及び自衛官候補生の入隊者20人のうち、同駐屯地への入隊者は4人。中でも裾野市出身の向井陽也候補生は入隊者の代表として86人の指揮を行い、元気づよく「気を付け」や「敬礼」の号令を出していた。

宣誓では、指揮者の向井候補生に続いて全員が大きな声で読み上げ、つい一週間前に入隊した我が子の凛々しい姿に驚く人や目頭を押さえる保護者の姿も見られた。

静岡地本は、引き続き新入隊員をサポートしていくとともに、今年度の新たな入隊者発掘のため、募集活動に邁進していく。

